

## (提案10)

シンポジウム「学士課程教育における文化人類学分野の参照基準」の開催について

1. 主催 日本学術会議地域研究委員会人類学分科会
2. 日時 平成26年4月7日(月) 13:00～15:00
3. 場所 日本学術会議講堂
4. 分科会の開催 開催予定あり
5. 開催趣旨

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの審議依頼に応じて平成22年にとりまとめた回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」に基づき、自ら教育課程編成上の参照基準を策定する作業を、関連する分野別委員会においておこなっている。地域研究委員会は「人類学分科会」において審議をおこない、このたび「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 文化人類学分野」の原案がまとめられた。参照基準は、文化人類学ならびにその関連分野の教育課程を設置する大学において広く利用していただくことが期待されている。このシンポジウムは、日本学術会議内外から広く意見をいただき、それを最終案に反映させるために開催するものである。

## 6. 次第

挨拶・全体説明

山本 眞鳥\* (日本学術会議第一部会員、法政大学経済学部教授)

司会

窪田 幸子\* (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

### I. 報告 (13:10～13:30)

鏡味 治也\* (日本学術会議連携会員、金沢大学大学院人間社会環境研究科研究科長・教授)

山本 眞鳥\* (日本学術会議第一部会員、法政大学経済学部教授)

### II. 討論 (13:30～15:00)

コメント

小泉 潤二\* (日本学術会議連携会員、日本文化人類学会会長、大阪大学)

未来戦略機構特任教授、国際高等研究所副所長)

山下 晋司 (帝京平成大学現代ライフ学部教授)

石田慎一郎 (首都大学東京都市教養学部准教授)

本多 俊和 (放送大学客員教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

## (提案 1 1)

公開シンポジウム「同性婚・パートナー法の可能性ーオランダの経験から学ぶ」の開催について

1. 主催 日本学術会議法学委員会親密な関係に関する制度設計分科会
2. 共催 特別配偶者法（パートナー法）全国ネットワーク
3. 日時 平成26年4月7日（月）14:00 ～ 17:00
4. 場所 日本学術会議5A-（1）、（2）会議室
5. 分科会の開催 開催予定あり

### 6. 開催趣旨

同性婚制度の導入が世界各地で相次いでいる。平成25年だけでも4か国が制度の導入を決定し、既存のパートナー法の取り扱いなど具体的な議論が始まっている。他方、日本では同性婚やパートナー法の法制化に向けた議論は進んでおらず、当事者らによる法制定の働き掛けも具体的な成果をあげられていない。このシンポジウムでは、平成13年に世界で初めて同性婚制度を導入したオランダにおいて、法制化の中心的役割を果たしたボリス・ディトリッヒ氏を迎え、日本における同性婚・パートナー法の法制化の可能性を探る。

### 7. 次第

挨拶・全体説明（14:00～14:10）

戒能 民江\*（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学名誉教授）

基調講演（14:10～15:00）

ボリス・ディトリッヒ（ヒューマンライツウォッチ・LGBTディレクター、元オランダ国会議員）

報告者（15:00～15:35）

谷口 洋幸\*（日本学術会議特任連携会員、高岡法科大学法学部准教授）

休憩（15:35～15:50）

コメント（15:50～16:20）

紙谷 雅子\*（日本学術会議連携会員、学習院大学大学院法務研究科教授）

廣瀬真理子\*（日本学術会議連携会員、東海大学教養学部教授）

大江 千束（特別配偶者法（パートナー法）全国ネットワーク共同代表）

総合討論（16:20～17:00）

司会：谷口 洋幸\*（日本学術会議特任連携会員、高岡法科大学法学部准教授）

紙谷 雅子\*（日本学術会議連携会員、学習院大学大学院法務研究科教授）

廣瀬 真理子\*（日本学術会議連携会員、東海大学教養学部教授）  
大江 千束（特別配偶者法（パートナー法）全国ネットワーク共同代表）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

## (提案 1 2)

公開ワークショップ「パラダイムシフト時代の国土論」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議土木工学・建築学委員会国土と環境分科会
2. 共 催： なし
3. 後 援： 土木学会（調整中），日本建築学会（調整中）他
4. 日 時：平成 26 年 5 月 23 日（金）13：30～16：30
5. 場 所： 日本学術会議 6 - A、B、C 会議室
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

土木工学・建築学委員会国土と環境分科会（委員長：嘉門雅史・香川高等専門学校校長）では、第 21 期の活動成果をとりまとめ、提言「持続可能社会における国土・地域の再生戦略」（平成 23 年）を公表した。この提言では、少子高齢化をはじめとする様々な制約条件下で、わが国が今後目指すべき国土と地域の持続可能な発展のために、4 つの基本戦略を示した。

第 22 期の分科会活動では、提言の具体化と実質化に向けての諸方策を検討するために、関連する学術分野からの意見を求めるとともに、政策担当者、実務担当者、そして一般市民との意見交換を行う場としてのワークショップ「持続可能社会における国土・地域の再生戦略」を企画し、2013 年 7 月 31 日に開催した。このワークショップでは 170 名を越える参加者を得て、東日本大震災を受け、懸念される将来の巨大災害に対する備えも含め、復興と持続的な地域の再生との整合をどのようにとるべきかについて、提言（平成 23 年）の具現化方策を議論した。

この経緯を踏まえ、少子高齢化をはじめとする社会環境の変化や、地球規模での自然環境の変化を時代のパラダイムシフトととらえ、災害に対する事前の備えを検討する際に重要な要素となる地域の危機管理に着目して、中長期的な国土形成のあり方や関連の諸方策を議論することを目的として新たにワークショップを企画した。

8. 次 第：

13:30～14:00 分科会活動とワークショップの趣旨説明

嘉門 雅史\*（日本学術会議第三部会員、香川高等専門学校校長）

14:00～16:30 パネルディスカッション

14:00～15:00 話題提供

- ①土の中長期的ガバナンス：  
赤松 俊彦（総務省消防庁防災課長）
- ②育成と技術界からの支援：  
内村 好（技術士会前会長、株式会社建設技術研究所副社長）
- ③継続的防災訓練の事例：  
谷口 栄一\*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研  
究科都市社会工学専攻教授）

15:00～15:15 休憩

15:15～16:30 ディスカッション

コーディネーター：

塚原 健一\*（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研  
究院教授）

パネラー： 話題提供者

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\* 印の講演者等は、主催分科会委員)

## (提案13)

公開シンポジウム「学士課程で身につけるべき心理学的素養に向けて」  
の開催について

1. 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会、心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会、心理学・教育学委員会心の先端研究と心理学専門教育分科会、心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会、心理学・教育学委員会心理学分野の参照基準検討分科会
2. 後援 公益社団法人日本心理学会（予定）
3. 日時 平成26年5月25日（日）13：30～16：00
4. 場所 東京大学
5. 分科会等 開催予定あり
6. 開催趣旨  
「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・心理学分野」の素案を提示し、日本学術会議関係者のみならず、広く一般の意見を聴取し、それを最終案に反映させることを目的とする。
7. 次第  
13：30～13：40  
Ⅰ 経緯と趣旨説明  
利島 保\*（日本学術会議連携会員、広島大学名誉教授）  
  
13：40～15：30  
Ⅱ テーマ別報告（各報告の題は仮題）
  - 1 「心理学とはどのような学問か」  
佐藤 隆夫\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
  - 2 「心理学固有の特性とは何か」  
長田 久雄\*（日本学術会議連携会員、桜美林大学大学院老年学研究科教授）
  - 3 「心理学を学ぶ全ての学生が身につけることを目指すべき基本的素養とは」

長谷川寿一\*（日本学術会議第一部会員、東京大学理事・副学長）

- 4 「心理学分野の学びを通して獲得すべき基本的な能力とは」  
箱田 裕司\*（日本学術会議第一部会員、九州大学人間環境学研究院教授）
- 5 「市民性の涵養をめぐる心理学的教養と心理学の専門教育」  
安藤 清志\*（日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授）

15：30～16：00

Ⅲ 質疑・討論

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(\*印の講演者等は、主催委員会・分科会委員)

## (提案14)

公開シンポジウム「高校地理歴史教育に関するシンポジウム」の開催について

1. 主催 日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会、  
地理教育委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会、高校  
歴史教育研究会、日本地理学会地理教育専門委員会

2. 日時 平成26年6月14日(土) 13:00~17:00

3. 場所 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE レクチャーホール

4. 分科会の開催 開催予定あり

5. 開催趣旨

去る平成23年8月3日の日本学術会議提言「新しい高校地理・歴史教育の創造—グローバル化に対応した時空間認識の育成—」は、心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科教育に関する分科会の5年間の審議を踏まえ、地理基礎・歴史基礎の必修化を提起したものであり、その後、文部科学省の研究開発学校制度の下、平成24年度から日本橋女学館高校、平成25年度からは神戸大学附属中等学校で、提言に関わる内容の研究授業も実施されてきた。こうした議論と実践の蓄積を基礎に、今、なぜ、地理基礎・歴史基礎の必須化が日本の教育にとって重要なかを、再度、日本学術会議から発信する。

6. 次第

開場 12:30

開会挨拶

木村 茂光\* (日本学術会議第一部会員、帝京大学文学部教授)

13:00-13:10 第一部 日本学術会議からの報告と実践報告

「再び高校歴史教育について—“歴史基礎”科目に求められるもの」

久保 亨\* (日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授)

「グローバル化時代の高校歴史教育とB科目の改革」

油井大三郎\* (日本学術会議特任連携会員、東京女子大学現代文化学部教授)

「高校地理教育について―“地理基礎”の将来性と課題」

井田 仁康\*（日本学術会議連携委員会委員、筑波大学人間系教授）

「高校選択科目“地理”の内容」

秋本 弘章（独協大学経済学部教授）

実践報告：高校教育の現場から

「京都府立西乙訓高校における地歴融合科目の実践」

須原 洋次（京都府立鳥羽高等学校校長）

「日本橋女学館高校における地理基礎、歴史基礎の実践」

揚村洋一郎（日本橋女学館中学校・高等学校校長）

「神戸大学附属中等学校における地理基礎・歴史基礎の実践」

山崎 健（神戸大学発達科学部教授）

休憩 15:15-15:30

15:30-16:50 第二部 自由討論

16:50-17:00 閉会挨拶

碓井 照子\*（日本学術会議第一部会員、帝京大学名誉教授）

7. 関係部の承認の有無：

（\*印の講演者等は、主催分科会委員）

## (提案15)

公開シンポジウム「アンダークラス化する若年女性（2）：支援の現場から」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会変動と若者分科会
2. 共 催：独立行政法人労働政策研究・研修機構
3. 日 時：平成25年6月21日（土）13：30～17：30
4. 場 所：JA共済カンファレンスホール（予定）  
（東京都千代田区平河町2-7-9）
5. 分科会等：開催予定あり
6. 開催趣旨：

本分科会は昨年度までの5回にわたる連続シンポジウムをとおして、我が国の若者たちの「自立」のモデルの脆弱化とその再構成について論じてきた。すなわち、新規学卒で採用され、企業内訓練を経て職業的自立を獲得し、同時に新たな家族を形成して生活の自立も確立していくというモデルの現実性が薄れ、自立困難な若者が増加したこと、また、これに対する政策的支援の現状や課題、若者たちの主体的な動きについて検討した。さらに昨年は、この問題を若い女性に焦点化し、ジェンダーの視点を含めて問題認識の深化を図った。

本年度のシンポジウムにおいては、引き続き若い女性に注目し、動き始めている支援の現場の実態と課題、今後の政策的支援の在り方について論じる。

### 7. 次 第

開催挨拶および基調講演（13:30～14:10）

宮本みち子\*（日本学術会議連携会員、放送大学教養学部教授）

現場からの報告：各20分

遠藤 智子（よりそいホットライン事務局長）

白水崇真子（豊中パーソナルサポートセンターゼネラルマネージャー）

小園 弥生（男女共同参画センター横浜めぐカフェ前担当者）（調整中）

講演（仮題）女性の貧困問題の構造（15:10～15:40）（30分）

丸山 里美（立命館大学産業社会学部准教授）

休 憩 (15:40～15:55)

討 論 (15:55～17:20)

パネリスト：講演者（上記4名）

コメンテーター：

山田 昌弘\*（日本学術会議連携会員、中央大学文学部教授）

金井 淑子\*（日本学術会議連携会員、立正大学文学部教授）

コーディネーター：

小杉 礼子\*（日本学術会議連携会員、労働政策研究・研修機構特任フ  
エラー）

閉会挨拶および議論のまとめ（17:20～17:30）

小杉 礼子\*（日本学術会議連携会員、労働政策研究・研修機構特任フ  
エラー）

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案16)

公開シンポジウム「人工降雨による渇水・豪雨軽減と水資源」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会
2. 後 援：日本気象学会、日本農業気象学会、日本沙漠学会等(予定)
3. 日 時：平成26年6月26日(木)13:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

近年、地球温暖化によって異常気象が頻発しており、また極端気象の発生増加も懸念されている。このような背景のもと、まず気象改良・気象改善の方面から気象・気候コントロールの意味の広い立場から話題提供して論議するとともに、その内の主要な課題である気象災害をもたらす両極端の干ばつ・大雨に関して、その防止対策法に密接に関連するイノベーション技術、すなわち人工降雨法による人工増雨と豪雨・豪雪防止への応用方法および水資源として利用可能な水量確保の方法、特に液体(液化)炭酸人工降雨法を中心に論議する。そして併せて広い気象制御法の今後の発展・方向性について展望する。

8. 次 第

13:00～13:05 開会挨拶

大政 謙次\* (日本学術会議第二部会員、東京大学農学生命科学科教授)

13:05～13:10 趣旨説明

真木 太一\* (日本学術会議連携会員、独立行政法人国際農林水産業研究センター特定研究主査、九州大学名誉教授)

13:10～13:45

(1) 液体炭酸散布による人工降雨実験－2012年2月27日の実験事例－

守田 治 (福岡大学環境未来オフィス教授)

真木 太一\* (日本学術会議連携会員、独立行政法人国際農林水産業研究センター特定研究主査、九州大学名誉教授)

鈴木 義則\* (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

脇水 健次 (九州大学大学院農学研究院助教)

13:45～14:20

(2) 液体炭酸人工降雨実験に対する数値シミュレーション－2012年2月27日三宅島付近で行われた事例に関して－

J. Ventaka Ratnam (独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラ

ポ主任研究員)

大西 領 (独立行政法人海洋研究開発機構地球 シミュレータセンター研究員)

14:20~14:55

(3) 液体炭酸散布による人工降雨実験—2013年の実験事例—

真木 太一\* (日本学術会議連携会員、独立行政法人国際農林水産業研究センター特定研究主査、九州大学名誉教授)

守田 治 (福岡大学環境未来オフィス教授)

鈴木 義則\* (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

脇水 健次 (九州大学大学院農学研究院助教)

西山 浩司 (九州大学大学院工学研究院助教)

14:55~15:10 休憩

15:10~15:45

(4) 大量 seeding によるレーダーエコーの減衰

遠峰 菊郎 (防衛大学校地球海洋学科教授)

脇水 健次 (九州大学大学院農学研究院助教)

西山 浩司 (九州大学大学院工学研究院助教)

島田 正樹 (防衛大学校理工学研究科地球海洋学科大学院生)

15:45~16:20

(5) 異常気象をもたらす気候変動現象の発見とその予測

山形 俊男\* (日本学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ所長)

16:20~16:55 総合討論

座長：鈴木義則\* (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

16:55~17:00 閉会挨拶

野口 伸\* (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

9. 関係部の承認：第二部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

## (提案17)

公開シンポジウム「航空宇宙、船舶海洋分野等における、研究開発と利用応用の橋渡しとバランス～双方向の流れをめざして～」の開催について

1. 主催：日本学術会議総合工学委員会フロンティア人工物分科会
2. 共催：なし
3. 後援：一般社団法人日本航空宇宙工業会、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構、一般社団法人日本リモートセンシング学会、日本海洋学会、一般財団法人日本宇宙フォーラム、一般社団法人日本航空宇宙学会（調整中）、特定非営利活動法人海洋音響学会（調整中）、海洋深層水利用学会（調整中）、公益社団法人日本航海学会（調整中）、公益社団法人日本船舶海洋工学会（調整中）
4. 日時：平成26年6月27日（金）10：00 ～ 17：30
5. 場所：日本学術会議 講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

研究開発と利用応用間を橋渡しし、バランスをはかることは、航空宇宙や船舶海洋分野をはじめ、例えば、天文台、原子力、加速器など様々なビッグサイエンスの領域において共通する課題である。言うまでもなく、双方向の流れをつくることは、行政側からの重要な視点でもある。

利用応用は、産業・経済への成果の展開以外にも、いわゆる施設として、あるいは観測手段を構築して成される科学観測、科学実験を指す面がある。これは、研究開発と呼称される領域を、シャープに理学と読むか、科学技術と読むかの違いにも起因するところで、フロンティア人工物分科会では、理学面の学術活動の発展・増進をめざし、地球惑星科学委員会とも連携して活動してきたところである。とくに航空宇宙および船舶海洋分野においては、この狭義、広義両面での橋渡しとバランスへの取り組み方が議論されるべきキーポイントである。

本シンポジウムでは、上述の観点について、関連分野を代表する講演者の方々をお迎えし、また、いくつかのテーマ毎のセッションをオーガナイズして、ご意見を発表いただき、それらの要旨を、前期に出されたフロンティア人工物分科会からの提言の改訂版に反映させることを目的とする。

8. 次 第：基調講演、一般講演、パネルディスカッション

○基調講演：10:10～11:50、13:00～13:40（11:50～13:00 は休憩）

1. 家 泰弘（日本学術会議第三部会員・副会長）
2. 久間 和生（内閣府総合科学技術会議議員）
3. 西本 淳哉（内閣府宇宙戦略室室長）
4. 長田 太（内閣官房総合海洋政策本部事務局長）
5. （未定）（文部科学省研究開発局）
6. 奥村 直樹（独立行政法人宇宙航空研究開発機構理事長）
7. 「海洋フロンティアへの挑戦：研究開発から利用応用への一気通貫を目指す（仮）」  
平 朝彦\*（日本学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構理事長）

○一般講演：13:40～15:30

8. 「独法での産業応用利用実例」  
（未定）（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）
9. 「海洋分野における研究開発成果とその産業利用（仮）」  
中原 裕幸（海洋産業研究会常務理事）
10. 「大学での産業応用利用実例」  
坂本 尚義\*（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院理学研究院教授）
11. 「独法での取り組みとバランスに関する考え方」  
（未定）（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）
12. 「大学での取り組みとバランスに関する考え方」  
（未定）（慶應義塾大学）
13. 「大学での取り組みとバランスに関する考え方」  
（未定）（大阪大学）
14. 「ビッグサイエンスへの取り組みと人材育成（仮）」  
今村 努（独立行政法人海洋研究開発機構特任参事）
15. 「産学官連携のあり方（Spin in vs Spin off）」  
（未定）（独立行政法人宇宙航空研究開発機構産業連携センター）
16. 「産学官連携のあり方（Spin in vs Spin off）」  
（未定）（東京大学）
17. 「利用応用活動と人材育成」  
（未定）（慶應義塾大学）
18. 「ILC 加速器における国際協力」  
（未定）

○パネルディスカッション：15:30～17:30

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（\*印の講演者は、主催分科会委員）

## (提案18)

公開シンポジウム「昆虫における刺激の受容とその反応」の開催について

1. 主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会、日本昆虫科学連合

2. 日時：平成26年7月26日（土）13:00～17:05

3. 場所：日本学術会議講堂

4. 分科会の開催：開催予定あり

5. 開催趣旨：

地球と云う限られた空間の中で人類が存続する技術・戦略を築き上げる為に、21世紀の生命科学は、農学、医学など個別な学問の更なる発展に止まらず、化学・物理学を基礎とする工学も含めた異分野と連携し、新たな視点を持つことが求められる。このスタンスから昆虫科学を概観すると、昆虫の優れた機能やデザイン、中でも、グローバルあるいはローカルな環境変化への適応や農薬に対する抵抗性の獲得をはじめ、昆虫が外部および内部からの様々な刺激情報を処理し適応する能力には学ぶべき点が多くある。この昆虫特有のテーマは昆虫科学のさらなる発展に繋がるとともに、昆虫科学を中心とした異分野連携を進めるに当たり、大きな可能性を持つ学問領域の一つであると期待できる。そこで、光や化学物質、栄養分など幅広い刺激の受容とその反応に焦点を当て、日本昆虫科学連合を構成する各学会において、最前線で活躍する研究者を演者としシンポジウムを開催する。比較的若い演者らとともに、昆虫科学の現状と将来、また昆虫科学を含めた生命科学の異分野連携の可能性を議論することが、本シンポジウムの趣旨である。

6. 次第：

開会（13:00）

I 活動報告（13:05～13:15）

藤崎 憲治\*（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授、日本昆虫科学連合代表）

II 応用昆虫学分科会活動報告（13:15～13:25）

嶋田 透\*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

III 講演（13:25～17:05）

1) 佐藤 明子（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

- 「ショウジョウバエ視細胞の明暗順応をつかさどる色素顆粒運動の分子機構」  
(40分)
- 2) 光野 秀文 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)  
「昆虫に学ぶ匂いバイオセンサの開発」 (40分)
- 3) 太田 広人 (熊本大学大学院自然科学研究科助教)  
「農薬の作用点から見た昆虫の化学物質の受容と反応」 (40分)  
休憩 (15分)
- 4) 永田 晋治 (東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)  
「昆虫の摂食行動の内分泌制御」 (40分)
- 5) 三浦 徹 (北海道大学大学院環境科学院・准教授)  
「昆虫における表現型可塑性：環境依存的な発生改変機構とその進化」 (40分)
- 閉会 (17:05)

(\*印の講演者は、主催分科会委員)